

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：38002

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00989

研究課題名(和文) 米軍統治下の沖縄における占領の社会史と秩序意識に関する基礎研究

研究課題名(英文) Basic Study on Social History of Occupation and Order-Consciousness in Okinawa under the U.S. Military Rule

研究代表者

若林 千代 (Wakabayashi, Chiyo)

沖縄大学・経法商学部・教授

研究者番号：30322457

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は米軍占領下の沖縄における社会的・政治的・法的、秩序意識の変容について、主に1)売春等の刑法犯罪事件、2)冷戦的反共主義による政治事件、3)国際児童福祉と女性・子ども、4)外国籍者(朝鮮人・台湾人)、5)感染症や精神疾患等に注目し、歴史的に検証した。主な成果として、まず琉球大学所蔵戦後刑事司法関係資料を整理・翻訳し、分析した。また沖縄県公文書館や沖縄の大学図書館新崎盛暉文庫、韓国外交史料館、国立国会図書館等において琉球列島米国民政府文書や琉球政府の法務部や公安局等の住民管理の諸制度や裁判に関する公文書、刑事人権や福祉関係者のオーラルヒストリーを収集した。更に学会報告や論文により公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、沖縄現代史研究において、従来、十分に光が当てられていなかった領域、たとえば、住民が対象となった刑事事件や冷戦的反共主義による政治事件、女性や子ども、国際福祉、外国人、感染症や精神疾患等)に注目し、新たな資料収集や調査によって空白を埋め、社会変容の全体像を把握しようとした。また、その過程で、これまで十分には調査されていなかったUSCAR(琉球列島米国民政府)裁判所の記録文書や法務部、公安部、琉球政府等の住民管理の諸制度や裁判に関する公文書、刑事人権や福祉関係者のオーラルヒストリーを新たに収集した。それらの分析を通じて、社会変容と制度の変化が人びとの秩序意識に与えた影響の検証を試みた。

研究成果の概要(英文)：This research aimed to examine historically the social/political/legal/order-conscious transformation in Okinawa under the U.S. military occupation, focusing on 1) the criminal cases, e.g. prostitutions, 2) the public safety cases, e.g. cold war suppression and anti-communist policy, 3) women and children in international adoption, 4) people of foreign descent (Koreans/Taiwanese), 5) the infection and mental illness. Main results are: First, we collected, translated, and analyzed the USCAR (United States Civil Administration of the Ryukyu Islands) court documents in the University of the Ryukyus Library. Secondly, we discovered the documents of the USCAR (Legal, Liaison and Public Safety Departments) and the Government of the Ryukyus relating to system and court, and collected the oral testimonies of those who worked for the human rights and the international adoption organizations. Thirdly, we presented and published the research results at the academic conferences and publications.

研究分野：冷戦東アジアのなかの沖縄現代史

キーワード：沖縄 米軍占領 社会史 秩序意識 冷戦 刑事司法 住民管理 人権

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究開始当初の背景は、複数の小規模な共同研究の蓄積にある。まず、研究代表者(若林)と研究分担者(森川)は、2018年頃より、1945年から50年前後にかけて沖縄住民が裁かれた法廷記録の整理および考察を中心に、沖縄現代史研究と刑事法学というそれぞれの専門的な知見を持ち寄り、とくに沖縄社会において「周辺化」を余儀なくされた領域として、感染症や精神疾患、あるいは、住民が対象となった刑事事件や冷戦的反共主義による政治事件を念頭に、戦後沖縄刑事法制史に関する共同研究を始めた。しかし、その過程で、米軍統治時期全般にわたる沖縄における司法制度と法執行、住民管理の実態に関する基礎研究の不足を痛感すると同時に、統治者と住民それぞれの秩序意識の形成に関する研究の必要性を自覚するようになった。そのためには、すでに集めた裁判記録や琉球高等検察庁の資料だけではなく、より体系的な資料整理と学術的検証が求められると考えた。

(2) それと併行して、研究代表者は、2016年度から2018年度、研究分担者とともにおこなった沖縄戦における朝鮮半島出身者に関する共同研究のなかで、冷戦の影響により米軍から「非琉球人」として管理の対象とされ、また、沖縄社会においても「周辺化」された朝鮮半島出身者について考察の対象を広げてきた。同様に、研究分担者との国際人権に関する共同研究を通して、女性や子どもの人権、国際結婚(離婚)、さらに国際児等に関する政策や法、制度に関する学術研究が少なく、また、国際福祉ケースワーカーの残した記録等の基礎資料が未整理であることがわかった。

(3) 米軍統治下の沖縄における社会変容と秩序意識に関する、本研究の開始時期の研究動向としては、例えば、社会保障制度に関する整理として中野育男『米国統治下沖縄の社会と法』(専修大学出版局、2005年)、職業訓練や失業保障に関する中野育男『米軍統治下沖縄の職業と法』(専修大学出版局、2008年)、琉球政府の公務員制度に関する川手撰『戦後琉球の公務員制度史—米軍統治下における「日本化」の諸相—』(東京大学出版会、2012年)、また、奄美出身者の置かれた法的地位を考察した「米国統治期『琉球列島』における『非琉球人』管理体制成立過程の研究—奄美返還直後までの『本土籍者』の強制送還を主軸として—」(博士学位論文、大阪大学、2017年)など、個別テーマの考察は増えていた。しかし、テーマが細分化し、米軍統治下の沖縄における社会変容と制度や法、秩序意識を総合的に把握するという試みは弱かった。本研究では、これらの個別テーマの研究からも示唆を受けつつ史資料の収集を進め、また、さらに従来光を当てられてこなかった「周辺化」された領域として、住民が対象となった刑事事件や冷戦的反共主義による政治事件、女性や子ども、国際児、外国人、感染症や精神疾患等に注目し、米軍統治期の社会的経験を総合的に整理し直したいと考えた。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究は、米軍統治下の沖縄における秩序意識について、占領がもたらした社会変容を明らかにしつつ、米軍の住民管理や行政制度、司法制度等がどのように形成され、運用され、また、権力と社会に関する人びとの意識に影響を与えたか、歴史的に考察することを目的としていた。そして、その際、とくに社会的に「周辺化」された領域として、住民が対象となった刑事事件や冷戦的反共主義による政治事件、女性や子ども、国際児、外国人、感染症や精神疾患等に注目した。

(2)具体的には、まず、琉球列島米国民政府文書や琉球政府の法務部や公安局をはじめとする司法や行政の住民管理の諸制度、裁判に関する公文書、また、刑事人権や福祉関係者のオーラルヒストリーの収集を目的とした。

(3)次に、そうして収集した資料をもとに、社会変容と制度の変化が人びとの秩序意識に与えた影響の検証をおこない、占領の社会史を考察することを目的とした。

### 3. 研究の方法

(1)本研究における資料の検証と考察の方法は、まず、資料の検証としては、とくに従来日本未公開とされていた琉球列島米国民政府法務局と公安局の公文書の検証、また、依然日本未公開である公文書については、米国国立公文書館で調査しようと考えていた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、本研究の助成期間は、米国への入国が制限されていたか、あるいは、米国国立公文書館自体が閉鎖、あるいは、閲覧制限をかけていた。助成期間の延長をおこなったが、閲覧制限が解けず、また、渡航費・滞在費の高騰（石油価格高騰と円安の影響含め）により、調査を断念した。

(2)そのため、資料調査を国内、もしくは、オンラインでできるだけ収集を続ける方向へと変更し、琉球大学図書館所蔵戦後刑事司法関係資料をはじめ、沖縄県公文書館所蔵の琉球列島米国民政府資料、琉球政府資料、南方同胞援護会関係資料等、詳細な資料調査が加えられていない領域を中心に調査を進めた。他の調査のターゲットについても焦点をより絞り込んだ。

(3)新型コロナウイルスの感染拡大で断続的となったが、戦後沖縄における国際福祉、女性と子どもの人権に関して、占領下での実践にかかわった方々へのオーラルヒストリーの収集を続けた。

(4)社会変容と制度の変化が人びとの秩序意識に与えた影響の考察については、本研究では、沖縄現代史（政治史・社会史）、刑法学（戦後沖縄刑事法制史）、沖縄のジェンダー／女性や国際人権論等を専門とする研究者、また、沖縄における外国人（朝鮮半島出身者）に関する研究を続ける研究者によって共同研究を組み、定期的に研究会を開催した。とくに、2020年初頭からは、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、顔を合わせての研究会が頻繁に開催できなかったため、主にオンラインの会議システムを利用して開催した。

(5)成果については、各自、専門学会等での発表、出版、専門雑誌他への投稿など、できるだけ成果を一般に公開した。また、発表後のフィードバックのため、研究会を開催した。

### 4. 研究成果

#### (1) 2019年度

2019年度は、資料の検証としては、国内の資料館・文書館である、沖縄県公文書館および琉球大学図書館、沖縄大学図書館（新崎盛暉文庫）、国立国会図書館、韓国外交史料館等の国内外の資料館・文書館での調査を進めると同時に、これらの資料館では入手の困難な、日本未公開の占領側の公文書等の資料の検証のため、米国での調査を計画し、準備をおこなっていた。

しかし、2019年度に予定していた、米国国立公文書館、米国議会図書館、プリンストン大学他における、日本未公開公文書の調査については、新型コロナウイルス感染症の日本における感染拡大、また、米国での感染拡大と日本からの入国制限がおこなわれたため、残念ながら、2019年度内の実施を断念せざるを得なかった。

とはいえ、研究発表は、各自が日本刑法学会、日本平和学会、また、国際学術シンポジウム他

でおこなうことができた。ただ、研究分担者（森川）が準備していた論文については、2020年3月発行予定となっていたものが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、出版社の作業が遅延した。

他方で、琉球大学図書館所蔵の戦後沖縄刑事司法関係資料については、研究会を開催し、翻訳をおこなうとともに、その内容について検討した。占領下における裁判に関する疑問点など、資料から考えられるさまざまな疑問点を整理した。たとえば、基地化による占領と空間の変容、人びとの経済生活・労働・家族形態等の変容、性売買と親密圏における暴力、社会福祉のシステム、その他について、議論をおこなった。

成果の一部を論文やオンライン開催の学会における口頭発表によって発表した。とくに、親川裕子「マイノリティ女性、複合差別と沖縄：無国籍児問題から」は、「複合差別」という観点から、沖縄現代史では依然として十分な検証がなされていない「無国籍児問題」に光を当てた。

## （2）2020年度

2020年度は、2019年度末（2020年3月）に予定していた米国国立公文書館や米国議会図書館、プリンストン大学他における日本未公開公文書の調査が、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う米国への入国制限によって不可能となったため、研究計画の見直しをおこない、オンラインによって収集・閲覧が可能な資料を中心に、改めて予備調査をおこなった。

2020年度の研究実績は、まず、資料の検証としては、琉球大学所蔵戦後刑事司法関係資料、また沖縄県公文書館や沖縄大学図書館新崎盛暉文庫、東京大学図書館、国立国会図書館等の所蔵資料の調査をおこない、とくに琉球政府の法務部、出入国管理局、裁判所、琉球列島米国民政府涉外局等の司法の住民管理の記録、南方援護事務局や裁判記録等の収集整理を続けた。

同時に、新型コロナウイルスの感染拡大に注意しつつ、前年度からの関連する聞き取り調査を継続した。

また、研究代表者と研究分担者は、オンラインのシステムを利用して共同研究会を継続し、売春と刑事法、公衆衛生と秩序意識、また、外国人の地位と処遇等について、成果の一部を論文やオンライン開催の学会における口頭発表によって発表した。

とくに森川恭剛は、琉球大学図書館所蔵の戦後沖縄刑事司法関係資料のなかから強制売春に焦点を当てて、翻訳を中心とした発表を段階的に始めた。また、金美恵「沖縄に在留する朝鮮半島出身者の法的地位をめぐる議論」は、外務省記録を掘り起こした研究で貴重である。若林千代は米軍占領下の感染症に関する研究ノートを発表し、同時に、沖縄現代史における占領社会史について国際学術シンポジウムで口頭発表した。

## （3）2021年度

2021年度、私たちは「今年度こそ」と、米国調査の機会を注意深く考えていたが、残念ながら、2019年度と2020年度同様、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う制限により、予定していた米国国立公文書館や米国議会図書館、プリンストン大学他における日本未公開公文書の調査は不可能だった。

2020年度に大幅に計画の見直しをおこない、オンラインによって収集・閲覧が可能な資料を中心に予備調査をおこなった。収集の限界等課題はあったが、新型コロナウイルスの感染拡大のなかでありながらも、かなりの研究に進捗が見られた。

2021年度の研究実績は、まず、資料の検証としては、琉球大学所蔵戦後資料（刑事司法関係）、また沖縄県公文書館や沖縄県立図書館、沖縄大学図書館新崎盛暉文庫、東京大学図書館、国立国会図書館等の所蔵資料の調査をおこない、具体的には琉球政府の法務部、出入国管理局、裁判所、琉球列島米国民政府涉外局等の司法の住民管理の記録、南方援護事務局や裁判記録等の収集整

理を続けた。

同時に、関連する聞き取り調査も継続した。

また、共同研究会をオンラインで開催し、売春と刑事法、公衆衛生と秩序意識、外国人の地位と処遇等について、共同討議した。

成果の一部を図書、論文やオンライン開催の学会で口頭発表した。森川恭剛による「戦後米軍刑法と強制売春」の連載は引き続き、裁判記録の翻訳を掲載した。また、森川『沖縄人民党事件』は、重要な政治事件の裁判所記録の翻訳であり、沖縄現代史研究に大きく資するものとなった。また、親川裕子「マイノリティ女性、差別の交差性についての一考察：国際福祉相談所、その役割と意義から」は、国際養子縁組等を担った、米軍占領下の国際児童福祉の民間組織・国際福祉相談所に関する稀少な研究で貴重である。若林千代”Occupation and Infection in Contemporary History of Okinawa”は、英語による発表であるが、占領下の感染症をめぐる社会史に触れているもので、これも新しい領域に光を当てている。

2021年度は、依然として新型コロナウイルスの感染が引き続き拡大傾向のため、2022年度の一カ年分の延長をおこなった。

#### (4) 2022年度

2022年度も残念ながら米国での調査は不可能だったが、2020年度に大幅に計画の見直しをおこなったことから、2021年度にはかなりの進展がみられ、2022年度はさらにオンラインによって収集・閲覧が可能な資料を中心に予備調査をおこなった。収集の限界等課題はあったが、新型コロナウイルスの感染拡大のなかでありながらも努力を続けた。

オンライン・ツールを通じて、継続的な共同研究会をおこない、各自の調査研究について共有し、互いの進捗状況を確認しつつ、共同研究を通じて、新たな知見を得た。

若林千代は、対日平和条約発効後の1953年に起きた政治事件(天願事件)について考察した。また、研究協力者(親川裕子)と連携し、国際福祉事務所の歴史的検証と聞き取り調査をおこなった。金美恵は、占領期の外国人の法的地位について、外務省記録を中心に考察した。また、森川恭剛が準備してきた刑事司法関係の裁判記録について、デジタル化と翻訳作業が進んだ。さらに、その資料から見える具体的な考察について、意見交換をおこなった。これらの共同研究については、一部を論文や研究ノート、口頭発表として公表した。

#### (5) その他

今回の科学研究費のプロジェクトでは、当初、米国での資料調査を予定していたが、それは新型コロナウイルスの感染拡大によって阻まれた。今後の課題である。

同時に、その制約のために、国内で可能な調査や資料の渉猟については、かなりの進展がみられたように思う。

他方で、占領の社会史ということ考えると、光が当てられていない領域があまりにも大きすぎるという実感である。引き続き、こつこつと資料収集をおこない、考察、発表ということを繰り返すことによって、少しでも米軍統治期の実態を明らかにし、沖縄現代史研究に資するよう努力を続けたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 若林千代	4. 巻 第27号
2. 論文標題 天願事件再考：1950年代沖縄の政治事件に関する一考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 年報・日本現代史	6. 最初と最後の頁 39 - 70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金 美恵	4. 巻 25
2. 論文標題 <書評> 謝花直美著『戦後沖縄と復興の「異音」：米軍占領下 復興を求めた人々の生存と希望』（有志舎、2021年）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ジェンダー研究：お茶の水女子大学ジェンダー研究所年報	6. 最初と最後の頁 231～233
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24567/0002000559	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 森川 恭剛	4. 巻 107
2. 論文標題 戦後米軍刑法と強制売春（5）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 琉大法學	6. 最初と最後の頁 29～109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24564/0002019632	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 森川 恭剛	4. 巻 106
2. 論文標題 戦後米軍刑法と強制売春（4）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 琉大法學	6. 最初と最後の頁 127～183
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24564/0002019552	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 森川恭剛	4. 巻 104
2. 論文標題 戦後米軍刑法と強制売春(2)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 琉大法学	6. 最初と最後の頁 115 - 186
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森川恭剛	4. 巻 105
2. 論文標題 戦後米軍刑法と強制売春(3)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 琉大法学105号35-172頁	6. 最初と最後の頁 35 - 172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 親川裕子	4. 巻 24
2. 論文標題 マイノリティ女性、差別の交差性についての一考察 国際福祉相談所、その役割と意義から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 沖縄法政研究	6. 最初と最後の頁 1 - 32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森川恭剛	4. 巻 第103号
2. 論文標題 戦後米軍刑法と強制売春(1)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 琉大法学	6. 最初と最後の頁 47-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 若林千代	4. 巻 第48巻第10号
2. 論文標題 占領と感染症 - 沖縄現代史における二つの病い-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 96-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金美恵	4. 巻 第25号
2. 論文標題 沖縄に在留する朝鮮半島出身者の法的地位をめぐる議論 - 外務省記録『沖縄関係出入域、外国人の法的地位在沖縄外国人の法的地位(1)』を中心に-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 沖縄大学地域研究所『地域研究』	6. 最初と最後の頁 123-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森川恭剛	4. 巻 2464号
2. 論文標題 最新判例批評(47)1 日米地位協定刑事特別法12条2項の緊急逮捕規定は、米軍により現行犯の身柄拘束を受けた者の身柄引渡しに適用される限りにおいて、憲法33条に違反しないとされた事例 2 米軍に拘束された者の身柄引受けの遅延及びその後の日米地位協定刑事特別法12条2項に基づく緊急逮捕が、いずれも国家賠償法上違法とされた事例[那覇地裁平31.3.19民2部判決]	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 判例時報	6. 最初と最後の頁 149-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森川恭剛	4. 巻 18
2. 論文標題 シンポジウム報告 性暴力と刑法	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 女性・戦争・人権	6. 最初と最後の頁 15-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 若林千代	4. 巻 47
2. 論文標題 「『吹きかえし』の風を待つ少年 東峰夫『オキナワの少年』と1950年代の沖縄」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 法政大学沖縄文化研究所『沖縄文化研究』	6. 最初と最後の頁 605～639
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 若林千代	4. 巻 43
2. 論文標題 「朝鮮戦争と沖縄 『知られざる戦争』を越えて」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 明治学院大学国際平和研究所『PRIME』43号	6. 最初と最後の頁 23～36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 若林千代
2. 発表標題 戦争と米軍占領、そして今
3. 学会等名 東京外国語大学国際日本学研究中心東アジア連続講演会 特別企画「沖縄『復帰』50年という問い」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 金美恵
2. 発表標題 沖縄施政権返還後の旧植民地出身者たちの法的地位について
3. 学会等名 沖縄国際大学・明治学院大学国際平和研究所主催「復帰」50周年シンポジウム「外国人」問題から共生を考える：米国統治下から現在まで（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 若林千代
2. 発表標題 Occupation and Infection in Contemporary History of Okinawa
3. 学会等名 Inter-Asia Cultural Studies Society (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 若林千代
2. 発表標題 Open Lecture: Towards New Deep South: Turning Adversities into Creative Exchange
3. 学会等名 国際交流基金 / 東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科主催「Deep South - Deep South」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 若林千代
2. 発表標題 ポスト冷戦とパンデミック：沖縄のコロナ経験と情動
3. 学会等名 韓国・聖公会大学東アジア研究所ウェビナーシリーズ(1)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森川恭剛
2. 発表標題 障害者の権利と刑事法
3. 学会等名 日本刑法学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 若林千代
2. 発表標題 “ A Boy Waiting for Wind to Blow Back: Higashi Mineo ’s Child of Okinawa and the 1950s Okinawa ”
3. 学会等名 Literary Debates and the Politics of Memory: Toward an Inter-Asia Perspective 国立清華大学 新竹市 台湾（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 親川裕子
2. 発表標題 「マイノリティ女性、複合差別と沖縄 無国籍児問題から 」
3. 学会等名 2019年度日本平和学会春季研究大会 部会5（企画委員会企画）「被害者」に寄り添う：分断を乗り越えるための「想像力」（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 王智明	4. 発行年 2023年
2. 出版社 聯合文學（台北）	5. 総ページ数 423
3. 書名 文學論戰與記憶政治：亞際視野	

1. 著者名 森川恭剛	4. 発行年 2021年
2. 出版社 インパクト出版会	5. 総ページ数 347
3. 書名 沖縄人民党事件	

1. 著者名 若林千代	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Somyeongchulpan	5. 総ページ数 202
3. 書名 ポスト冷戦とパンデミックー沖縄のコロナ経験と情動ー	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	金 美恵 (Kim Mihye)  (00774142)	東京大学・大学院総合文化研究科・特任研究員  (12601)	
研究分担者	森川 恭剛 (Morikawa Yasutaka)  (20274417)	琉球大学・人文社会学部・教授  (18001)	
研究分担者	親川 裕子 (Oyakawa Yuko)  (30827291)	琉球大学・人文社会学部・客員研究員  (18001)	削除：2022年5月17日

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	親川 裕子 (Oyakawa Yuko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------